

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第1回 就業支援 部会	参加者数	44 人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 2階 大会議室						
	日時	平成27年4月24日(金) 15:00 ~ 17:00										
主 テ ー マ	<p>1 県就労支援部会報告</p> <p>2 今年度の取り組みについて</p> <p>3 『B型アセスメント』検討委員会(仮称)と企業グループ(仮称)に分かれての意見交換</p> <p>4 その他</p>											
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(きらりあ 北嶋より)</p> <p>○長野県第1回就労支援部会が、平成27年4月24日(金)、松本合同庁舎において開催された。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加メンバーの約半数が昨年度と入れ替わった。自己紹介と平成27年度事業計画案検討が中心議題。 ・県の就労支援部会の目的 (1) 長野県の障がい者の雇用(一般就労)促進 (2) 福祉的就労、特に就労移行支援事業所との有機的な連携強化 (3) 精神障がいのある方の就労支援の実態把握 (4) 『B型アセスメント』に関する調査・研究及び圏域間の連携への協力 など ・教育、福祉、就労の連携をより充実させる方向で活動予定。 その一環として、6月2日(火)に松本合同庁舎で開催される県教育委員会主催の「高等学校特別支援教育研究会」に部会として協力していくことが決まっている。 <p>2 について(大和部会長より)</p> <p>○今年度の部会活動計画の概について、説明があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2カ月に1回程度開催予定。 ・福祉的就労分野においては、『B型アセスメント検討委員会』(仮称)を分科会として立ち上げたい。 ・一般就労分野での障がい者雇用推進のため、企業グループ(仮称)を立ち上げ、事例検討等行いたい。 ・年間活動計画(案)は、次のとおり。 <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 33%;">第2回 6月5日(金) 販売会</td> <td style="width: 33%;">第3回 8月 事例検討</td> <td style="width: 33%;"></td> </tr> <tr> <td>第4回 10月 出前講座(伊那養護学校と調整中)・事例検討</td> <td>第5回 2月 まとめ</td> <td></td> </tr> </table> <p>3 について</p> <p>○『B型アセスメント』検討委員会グループと企業グループに分かれ、それぞれ約45分程度、意見交換を行った。その後、各グループでの話し合いの要点を全体で共有した。</p> <p>(1) 『B型アセスメント』検討委員会グループより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、B型アセスメントについて、厚生労働省のQ&A集等に基づき、制度概要の理解を深めた。 ・伊那養護学校より高等部3年生で卒業後B型利用を希望している生徒を対象とするアセスメント推進計画の説明を受け、アセスメント時期や期間、アセスメント項目等について意見交換を行った。 ・アセスメントシートは圏域共通の使いやすいものを小委員会で検討して試案を作成し、次回提案したい。 ・B型事業所で行う実習の様子をまとめた資料を就労移行支援事業所が行うアセスメントの参考資料として活用してはどうかといった意見も出された。 <p>(2) 企業グループより</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業関係者を中心に約15人で議論し、今後の方向性として次の3点を確認した。 ① 上伊那圏域で障がい者雇用を積極的に進めている企業から、障がい者雇用の話を聴いてみたい。 ② 障がい者雇用の積極的な推進を図るため、福祉的就労の事業所も交え全体で情報交換を行いたい。 ③ 精神障がい者で実際に就労している当事者の生の声を聴く機会を作っていきたい。 ・正式名称を検討後、7~8月頃を目途にグループとしての活動をスタートさせたい。 <p>4 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者多機能型事業所「おぷしょん」(就労移行・就労継続支援B型事業)が平成27年6月開所予定である。 						第2回 6月5日(金) 販売会	第3回 8月 事例検討		第4回 10月 出前講座(伊那養護学校と調整中)・事例検討	第5回 2月 まとめ	
第2回 6月5日(金) 販売会	第3回 8月 事例検討											
第4回 10月 出前講座(伊那養護学校と調整中)・事例検討	第5回 2月 まとめ											
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の活動の方向性を皆で検討し、福祉的就労・企業グループに分かれ情報交換を行うことができた。 ・県就労支援部会の様子や、新事業所立ち上げ等の情報共有を図ることができた。 											
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・6月5日(金)、事業所による販売会形式で開催予定。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。 											

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第2回 就業支援 部会	参加者数	56人	会場	伊那市福祉まちづくりセンター 2階 大会議室																		
	日時	平成27年6月5日(金) 14:00 ~ 17:00																						
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 事業所プレゼンテーション 2 福祉就労事業所による製品の販売・展示会 3 『B型アセスメント』検討委員会と企業グループ(仮称)に分かれての意見交換 																							
主 な 意 見 な ど	<p>1 について(進行:セルプセンター協議会 梅津事業化推進員)</p> <p>○販売会に参加した10の福祉就労事業所より、各々3分間で事業所紹介や自主製品のPRが行われた。 ○プレゼンテーションを行った福祉就労事業所は、次のとおり。(敬称略・順不同)</p> <table border="0"> <tr> <td>・輪っこはうす・コスモスの家</td> <td>・ゆめわーく</td> </tr> <tr> <td>・さくらの家</td> <td>・伊南桜木園</td> </tr> <tr> <td>・やればできる</td> <td>・伊那ゆいまーる</td> </tr> <tr> <td>・西駒郷宮田支援事業部 わーく宮田</td> <td>・西駒郷駒ヶ根支援事業部 信州まめ匠</td> </tr> <tr> <td>・親愛の里 シンフォニー</td> <td>・信州こころん</td> </tr> </table> <p>○出席した以下の企業等からも、合わせて事業内容等についての説明があった。(敬称略・順不同)</p> <table border="0"> <tr> <td>・(株)日研環境サービス</td> <td>・オリンパスサポートメイト(株)長野事業グループ</td> </tr> <tr> <td>・(同)夢倶楽部しらかば 信州カウンセリングセンター</td> <td>・長野県伊那技術専門校</td> </tr> <tr> <td>・KOA(株)</td> <td>・(株)ニッパツ・ハーモニー</td> </tr> <tr> <td>・(株)総合キャリアトラストSAKURA岡谷センター</td> <td>・おぶしょん</td> </tr> </table> <p>※各企業・事業所の詳細につきましては、直接、各企業・事業所へおたずねください。</p> <p>2 について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約40分間、各事業所が持ち寄った自主製品を中心とする展示・販売会が行われ、大変盛況であった。 <p>3 について</p> <p>○『B型アセスメント』検討委員会グループと企業グループ(仮称)に分かれ、それぞれ約45分程度、意見交換を行った。その後、各グループでの話し合いの要点を全体で共有した。</p> <p>(1) 『B型アセスメント』検討委員会グループより(きらりあ 北嶋)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめに、5月25日に行われた第1回『B型アセスメント』検討委員会の概要報告を行った。 ・資料として「アセスメントシート(試行版)」を配布し、記入上の注意点やどのような基準で記載するか等について意見交換を行った。 ・伊那養護学校の6月実習時に、実習受け入れ先の就労継続支援B型事業所の協力を得て、試行版をもとにしたアセスメントを仮に実施してみることにし、その結果を第2回検討委員会(6/22開催)に持ち寄り、シートの改善に反映させていく予定である。 <p>(2) 企業グループ(仮称)より(大和部会長)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者雇用を積極的に進めている企業の話をお聴きたいとの要望を受け、8月頃に「駒ヶ根電化」さんのお話をお聴きする方向で、聴いてみたい話の内容を情報交換も交えながら、皆で検討した。 ・仕事の確保や障がいのある方への接し方、作業の安全確保や賃金バランス等に関する話題が出た。 ・これらを踏まえ、駒ヶ根電化さんとも今後調整の上、実現していく方向である。 ・企業グループの正式なネーミングについては、次回以降引き続き検討する予定である。 						・輪っこはうす・コスモスの家	・ゆめわーく	・さくらの家	・伊南桜木園	・やればできる	・伊那ゆいまーる	・西駒郷宮田支援事業部 わーく宮田	・西駒郷駒ヶ根支援事業部 信州まめ匠	・親愛の里 シンフォニー	・信州こころん	・(株)日研環境サービス	・オリンパスサポートメイト(株)長野事業グループ	・(同)夢倶楽部しらかば 信州カウンセリングセンター	・長野県伊那技術専門校	・KOA(株)	・(株)ニッパツ・ハーモニー	・(株)総合キャリアトラストSAKURA岡谷センター	・おぶしょん
・輪っこはうす・コスモスの家	・ゆめわーく																							
・さくらの家	・伊南桜木園																							
・やればできる	・伊那ゆいまーる																							
・西駒郷宮田支援事業部 わーく宮田	・西駒郷駒ヶ根支援事業部 信州まめ匠																							
・親愛の里 シンフォニー	・信州こころん																							
・(株)日研環境サービス	・オリンパスサポートメイト(株)長野事業グループ																							
・(同)夢倶楽部しらかば 信州カウンセリングセンター	・長野県伊那技術専門校																							
・KOA(株)	・(株)ニッパツ・ハーモニー																							
・(株)総合キャリアトラストSAKURA岡谷センター	・おぶしょん																							
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所プレゼンテーション・販売会を通して、圏域事業所間の交流や情報交換を図ることができた。 ・『B型アセスメント』と企業グループに分かれ、課題の整理や情報共有を行うことができた。 																							
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回部会は、8月に開催予定です。大勢の皆様のご参加をお待ちしています。 																							

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第3回 就業支援 部会	参加者数	41人	会場	宮田村民会館 視聴覚室
	日時	平成27年9月3日(木) 13:30 ~ 15:30				
主 テ マ	1 講演:「わが社の障がい者雇用の取組み」 2 分科会:「B型アセスメント検討委員会」と「企業グループ」					
主 な 意 見 な ど	1 について (1) 講演 ○演題:「わが社の障がい者雇用の取組み—障がい者の皆さんは仲間であり、大切なパートナーです—」 ○講師:株式会社駒ヶ根電化 専務取締役 山下政隆氏 【講演概要】 ・企業概要:企業ドメイン・企業理念・企業活動等の紹介。 ・障がい者雇用状況:現在の障がい者雇用比率は、10.6%。 ・障がい者雇用の経緯:昭和44年 西駒郷所外実習受入れに始まり、現在に至る。 ・障がい者雇用の考え方:「障がい者のみなさんは、『当社になくてはならないパートナー』」。 ・採用の流れと採用後:短期間のトライからスタート、採用後は障がい者職業生活相談員等によりサポート。 ・障がい者雇用の課題:①感情面のコントロール、②安全面の配慮、③衛生管理。 (2) 質疑応答 (略) ○長年の雇用ノウハウから、様々な環境調整の工夫等、具体例を挙げながら、分かりやすくお話くださった。 ○障がい者雇用にはさまざまな助成制度があるので、うまく活用して積極的に雇用してほしい旨、社会保険労務士である上野氏から、補足説明があった。 2 について (1) 分科会 ○「B型アセスメント検討委員会」と「企業グループ」に分かれて、それぞれ約30分間、話し合いを行った。 (2) 全体会 ○各分科会で話し合われた内容の要点を報告し合い、全体で共有した。概要は、次のとおり。 ア B型アセスメント検討委員会より (ア) 上伊那版「就労系障害福祉サービスの利用に係るアセスメントシート」作成の経過報告 ・ワーキンググループでシートの検討を重ね、6月の伊那養護学校現場実習時に、学校・事業所の協力を得て、アセスメントを試行的に実施、実際の使い勝手や感想を踏まえた再検討を経て、最終案となった。 ・シートはA4 1枚。評価方法や評価基準も掲載し、できるだけコンパクトで分かりやすいものを目指した。 (イ) 伊那養護学校より今年度の就労アセスメントの状況報告 ・今年度のアセスメントは、完成したシートを用いて、8月下旬に5日間、就労移行支援事業所の協力を得て、無事実施できた。市町村、相談支援事業所、就労関係事業所との連絡・調整は学校主導で行った。 (ウ) 今後の方向性 ・本シートを上伊那版統一様式とし、不具合があれば修正しつつ、活用していく方向で考えたい。 ・今後は、相談支援専門員主導でケア会議を開き、就労アセスメントのまとめと振り返りを行いたい。 ・初年度の取組みの報告会を本部会主導で企画し、関係者間で情報共有して次年度に備えてはどうか。 →年度末までに実施する方向で、相談支援専門員連絡会等とも連携し、広く横断的な開催を視野に、企画・検討していきたい。(事務局より) イ 企業グループより ・分科会名称は「企業グループ」とすることが、正式に決まった。 ・次回部会で、県内特例子会社によるシンポジウムを開催したらどうかと事務局より提案し、賛同を得た。 ・障がい者雇用をしている、または検討中の企業による養護学校の見学を実現したい。実習だけでは、分からないことも多い。雇用とのミスマッチ解消のためにも、先生方にまず企業実習を体験していただくのはどうかといった意見も出された。					
ま と め	・障がい者雇用に積極的に推進している地元企業の先進的な取り組みをお聴きし、学びを深めることができた。 ・各分科会では、就労アセスメント報告会や県内特例子会社によるシンポジウム開催の提案等、前向きで活発な意見交換及び情報共有ができた。					
次 回	・詳細については、後日お知らせする。					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第 4 回 就 業 支 援 部 会	参加者数	80 人	会場	宮田村民会館 2階 研修室
	日時	平成 27 年 11 月 20 日 (金) 14:00 ~ 16:40				
主 テ マ	1 県内特例子会社シンポジウム —シンポジスト発表 & 質疑応答・ディスカッション—					
主 な 意 見 な ど	<p>1 について ○県内特例子会社5社によるシンポジウムを休憩をはさみ、2部構成で開催した。(司会進行:大和部会長)</p> <p>(1) 第Ⅰ部:シンポジストによる各特例子会社の概要説明 <ul style="list-style-type: none"> ・各シンポジストより、特例子会社及び親会社の紹介と障がい者雇用の現状、障がい者が従事する業務内容や職場定着のための工夫、支援の課題等について、パワーポイントによる発表が行われた。 <p>ア はじめに(大和部会長) <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムに先立ち、特例子会社制度の概要について、部会長より説明があった。 <p>イ シンポジストによる発表(各シンポジスト 約10分 概要のみ掲※発表順不同 (ア)オリパスサポートメイト株式会社 長野事業グループ グループリーダー 武居 和彦 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・業務は、事業所内清掃活動が主。知的障がい者98%、精神障がい者2%。各種イベントも開催。 ・障がい特性に配慮したコミュニケーション:分かりやすく簡潔に、はっきり具体的に、混乱させない等。 ・職場定着の工夫:家族連携、目標評価の共有、特性に応じた分担、手順書による可視化、体力配慮等。 (イ)株式会社ニッパツ・ハーモニー 管理部長 大田 辰夫 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・業務は、ニッパツ建物・構内清掃が中心。知的障がい者を雇用(身体・精神の方は親会社が直接雇用)。 ・職場定着のため、アビリンピック出場、改善提案制度、社会人教育(マナー等)、親睦活動などを実施。 ・課題:法定雇用率引上げへの対応→親会社(身体・精神の方)の直接雇用とハーモニーの職域拡大 等。 (ウ)株式会社日研環境サービス 管理課係長 信谷 民也 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・業務は、親会社の社員寮清掃・引越し補助等。3障がいすべて雇用しているが、知的障がいの方が主。 ・リーダー1人、メンバー3人で1クルー。ワークシェアリング、通勤配慮(最寄駅までの送迎)等を実施。 ・職場定着のため、業務改善ミーティング、個別支援会議等開催。就労は地域生活の一助と捉えている。 (エ)株式会社総合キャリアトラスト 代表取締役 宮林 利彦 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・業務は、データ入力、発送・梱包、封入・配達、校正チェック等。3障がい雇用で、精神の方が8割以上。 ・パネルで業務アピール→社外業務も受託。運用ルールのマニュアル化、社員アンケート等も行っている。 ・特例子会社立上げ時のポイント…①採用計画、②事前研修、③業務選定、④業務環境整備。 (オ)エプソンミズベ株式会社 豊科工場 現場責任者 池上 邦子 氏 <ul style="list-style-type: none"> ・業務は、障がい種別に応じ、仕訳、梱包、部品分解、組立、構内清掃、文書分別・発送代行等。通勤可能地における親会社の委託業務を受託。身体(聴覚や内部障がい含む)と知的障がい者を雇用している。 ・障がい特性に応じた施設環境整備、レクや親睦会も企画。支援者とともに成長する企業を目指している。 (カ)上伊那圏域障がい者支援センター きらりあ 主任就業支援ワーカー 北嶋 昭 <ul style="list-style-type: none"> ・上伊那圏域障がい者就業・生活支援センターのスタッフ及び主要業務の紹介 他。 </p> <p>(2) 休憩 ・休憩時には、シンフォニーによる喫茶(コーヒー販売)、信州まめ匠による製品販売が行われた。</p> <p>(3) 第Ⅱ部:参加者(フロア)も交えた質疑応答&ディスカッション ○参加者から出された質問への回答を中心に、特例子会社の現状と課題について、さらに議論を深めた。 ○質問をもとに構成されたディスカッションの主テーマ <ul style="list-style-type: none"> ・自分に自信が持てない障がい者に対する各社の配慮と工夫 ・障害者手帳を持たないいわゆる「グレーゾーン」の方々の雇用について ・特例子会社としての収益確保や業務確保の課題・苦労について ・特例子会社指導員の採用方法、指導員向け研修制度等について ・精神障がい者の雇用に関して、平成30年度法定雇用率算入も視野に、各社どのように考えているか ・上伊那圏域にこれだけ多くの特例子会社があるのはなぜか、圏域の地域性や魅力について ○シンポジストからは、それぞれの特例子会社の実情を踏まえながら、1つ1つのテーマに対して、丁寧かつ真摯な回答をいただいた。各社の工夫や率直な悩みなどに触れ、お互いに学び合う貴重な時間となった。</p> </p></p>					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・県内初の特例子会社シンポジウムを開催し、特例子会社の現状と課題を、ともに学び合うことができた。 ・圏域外からも多くの参加者があり、関係者間の連携やネットワーク構築の一助とすることができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・来年2月頃の開催を予定している。詳細は、後日お知らせする。 					

平成27年度 上伊那圏域地域自立支援協議会議事録

会議	部会名	第5回 就業支援 部会	参加者数	40人	会場	伊那市 福祉まちづくりセンター 2階 大会議室
	日時	平成28年2月19日(金) 14:30 ~ 16:40				
主 テ ー マ	<ol style="list-style-type: none"> 1 県就労支援部会報告 2 事例を用いたグループワーク 3 今年度のまとめ 4 その他 					
主 な 意 見 な ど	<ol style="list-style-type: none"> 1 について(きらりあ 北嶋より) <ul style="list-style-type: none"> ○県自立支援協議会第5回就労支援部会(平成28年2月3日開催)の概要報告。 <ul style="list-style-type: none"> ・今年度、県の部会の主テーマは「精神障がいのある方々の就業支援」。第5回は学習会(講演会)がメイン。 ・講師に眞保智子法政大学教授を迎え、「職場定着と戦力化(働きがいのある仕事配置)に向けて合理的配慮を考える」をテーマに、約1時間の講演及び質疑応答が行われた。 ・就業現場における合理的配慮について、具体的に分かりやすくお話いただいた。 ・とてもよい内容の講演だったため、予算が許せば、次年度、講師として本部会で招聘することも検討したい。 2 について(参加者全員) <ul style="list-style-type: none"> ○1グループ8名、計5グループに分かれて、事例検討を行った。 <ol style="list-style-type: none"> (1) 事例テーマ:「短期間で離職する人の支援について」 (2) 事例概要、支援内容・経過、考察及び討議したい内容について(事例提供者より) (3) グループごとの事例検討(約45分間) (4) グループごとの話し合い結果の発表と全体での共有 (5) 事例提供者の感想発表 3 について <ol style="list-style-type: none"> (1) 今年度の活動の振り返り(大和部会長より) <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して計5回の部会を開催。販売会、講演会、特例子会社シンポジウム、分科会、事例検討等行ってきた。(内容詳細は、平成27年度第1回～第4回就業支援部会議事録を参照のこと) (2) B型アセスメント検討委員会より <ul style="list-style-type: none"> ア 活動報告(アンサンブル 高橋委員長より) <ul style="list-style-type: none"> ・のべ5回、委員会を開き、「B型アセスメント」実施方法、アセスメント様式の作成を中心に検討してきた。 ・アセスメント受入れ体制については、伊那養護学校、就労移行支援事業所と連携して検討できた。 ・アセスメント様式は、コンパクトなものとし、書きやすさ、使いやすさを重視して作成することができた。 イ 補足説明(伊那養護学校 古田教諭より) <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は、高等部3年生8名が、2名ずつ4つの就労移行支援事業所で5日間のアセスメントを受けた。(高等部2年生1名もアセスメントを希望されたため、岡谷市の事業所で2週間のアセスメントを受けた) ・アセスメントの時期・期間・内容等、学校として問題はなく、次年度も同様に行っていただければと思う。 ・今年度のまとめとして、行政や相談支援事業所等の関係機関にも集まっていたいただき、報告と次年度の方向性を共有できると、来年度もスムーズに動き出せるのではないかと思います。 →作成した様式は、来年度以降も圏域で継続使用していく。不具合があればその都度修正していく。 (3) 来年度の部会について(きらりあ 北嶋より) <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、企業グループと福祉的就労グループに分かれ、B型アセスメントは後者で必要に応じて検討する方向で考えている。ご意見・ご要望等あれば、事務局へお知らせください。 4 について <ul style="list-style-type: none"> ○就労移行機能強化事業の活用について(おぷしょん 宮内所長より) <ul style="list-style-type: none"> ・NPO法人障がい者雇用支援ネットワークながのでは、県より標記事業を受託し、①就労移行支援のための研修、②個別課題に向けた支援を行っている。 ・②は就労支援員のスキルアップ研修等、事業所の希望に応じた支援をジョブコーチが入って行っている。 ・スキルアップ研修は、当圏域でも積極的に進めていきたいので、ぜひご参加、ご協力をお願いしたい。 					
ま と め	<ul style="list-style-type: none"> ・事例検討を通して、就業支援のあり方を多職種でさまざまな角度から考えることができた。 ・県就労支援部会等の情報を共有し、今年度の活動のまとめと次年度の方向性を検討することができた。 					
次 回	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は5回の部会を開催してきました。大勢の皆さんのご参加、ありがとうございました。 ・来年度も引き続き積極的なご参加をよろしくお願いいたします。 					

